

共生社会の形成を目指して～心と心のふれあい活動（CO. CO.フレ）～

■概要

北海道夕張高等養護学校は、平成30年6月に、学校運営協議会を設置しました。

学校と地域が一体となって「共生社会」の形成を目指して、年3回（5月、10月、1月）学校運営協議会を実施するほか、学校において「地域と一体となった教育実践」を推進するため、地域の教育資源を積極的に活用し、生徒の障がいや発達段階を踏まえた授業を展開しています。

本校の学校運営協議会では、障がいのある子どもたちへの地域の理解を促進するため、地域住民に加え、医療、保健、福祉分野などの関係機関や地域の企業などが連携した教育活動を充実させ、「障がいの有無に関わらず、全ての人々が互いに人権と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を互いに認め合える、全員参加型の社会（共生社会）の形成」に向けて学校と共に取組を進めています。

委員の構成等

- 学校運営協議会委員 10名
 - ・学識経験者 3名
 - ・行政機関の職員 1名
 - ・運営に資する活動を行う者2名
 - ・地域住民 2名
 - ・保護者（PTA会長） 1名
 - ・校長 1名
- 学校の教職員（特別委員会） 12名
- 部会
 - ・学校支援部会 11名
 - ・学校評価部会 11名

■具体的な取組事例

地域の教育資源を積極的に活用した授業の展開

- 取組に至るまでの経緯
 - ・平成30年7月の第1回学校運営協議会では、委員から「開かれた学校づくり」を推進するため、保護者や地域の方々が学校運営に参画し、現在の学校の取組を一層充実させることが大切であるという意見が出されました。
 - ・学校では、学校運営協議会での意見を受け、保護者や地域の方々の意見を踏まえて、「地域と一体となった教育実践」という視点から学校行事や日々の授業づくりを見直すことにしました。
- 実際の取組
 - ・「地域の教育資源を積極的に活用した授業の展開」の視点から、作業学習担当教員が、地域の関係機関や協力団体の意向を踏まえた調整を行い、作業学習として、夕張市文化スポーツセンターや夕鉄バスターミナルでの清掃活動を行いました。
 - ・「体験活動を重視した授業の展開」の視点から、各作業班（農作業・紙工・木工）が行う清掃活動が、生徒一人一人の障がいの状況や特性等を考慮した体験活動となるように計画を立てました。
 - ・6月～9月の期間、計6回実施した清掃活動では、施設の職員の方々から「ありがとう」という感謝の言葉や、施設を利用している地域の方々から「ごろうさま」や「頑張ってるね」という労いの言葉を掛けていただき、生徒たちの「やる気」につながる貴重な体験をすることができました。



■成果と課題（今後の展望）

- 学校運営協議会委員から意見をいただくことで、「開かれた学校づくり」「地域と一体となった教育活動」という視点から、教職員一人一人が自分たちの授業実践を見直す機会となりました。
- 学校運営協議会委員がパイプ役となって、地域の人材や施設などを紹介していただいたことで、教職員の業務の軽減や、地域の資源を有効に活用した効果的な「体験活動を重視した授業」を展開することにつながりました。
- 今後は、「地域の教育資源を積極的に活用した授業の展開」（ローカル・コミュニティ）を一層充実させるとともに、「地域と一体となった教育活動」（テーマ・コミュニティ）にも取り組む必要があると考えています。

地域と共に学び、共に働き、共に生きる学校の実現に向けて

■概要

北海道新得高等支援学校は、平成30年6月1日に学校運営協議会を設置しました。

本校は、平成28年度の開校以来、地域資源の活用(地域の方々を講師とした学習活動の実施等)や、さくらプロジェクト(新得町と連携した、小学校へ入学する児童に贈る記念品を受注、製造、納品する取組)、校外作業学習

(町内の事業所で週1回作業を行う学習)など、地域と連携した教育活動を実施してきており、保護者及び地域との更なる連携強化に向け、年3回(6月、11月、2月)学校運営協議会を実施し、話し合いを続けています。



委員の構成等

- 学校運営協議会委員 10名
 - ・会長(福祉施設長)
 - ・副会長(教育・行政)
 - ・委員
 - 企業 1名
 - 関係機関 1名
 - 保護者 1名
 - 地域住民 3名
 - 教育・行政 1名
 - 設置校学校長 1名

■具体的な取組事例

「町内唯一の高等学校段階の学校」としての学校づくりを考える

- 取組に至るまでの経緯
 - ・平成30年11月の第2回学校運営協議会では、「新得高等学校閉校後、町内唯一の高等学校段階の学校となる本校に期待すること」と「学校に参加してほしい地域の取組(行事など)」の2つの柱で熟議が行われました。
 - ・熟議の中では、「将来的には町の中に生徒がいることが普通になってほしい」「卒業後にも町に残ることができる環境となってほしい」等の意見が出され、「今、種をまき、10年後に少しでも実現していければ」とまとめています。
- 実際の取組
 - ・学校運営協議会での熟議をきっかけに、令和元年度(2019年度)、新たに学校内組織として「10年未来プラン推進室」を設置し、今後の学校運営について協議しています。

10年未来プラン推進室
 <<構成員>> 本校教職員3名
 <<目的>> 「将来においても継続可能で、効果的な教育の方向性(価値選択)と実現のための方策(グランドデザイン)」を検討すること



C S



Action!!

■成果と課題(今後の展望)

- 平成30年度からの計4回の学校運営協議会の中で、これまで3年間実施してきた作業学習を振り返り、より地域の資源を活用した作業学習の在り方について地域の方と検討できたことにより、「社会に開かれた教育課程」に向けた教育課程の見直しにつなげることができました。
- 「10年未来プラン推進室」が考えたプレゼンを学校運営協議会で行い、委員の方々から御意見をいただきながら練り上げ、町全体の取組として今後実現できるものを目指しています。
- 今後は、推進室が考えた取組内容と町内における情報を集約・整理し、実現できる活動を地域と学校で熟議を繰り返し、生徒の学習活動の充実につなげていきたいと考えています。